

地域密着型サービスの自己評価票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念は作ってあり面会時には見える所に掲示してある。	○	職員は出勤時必ず読むようにする。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	優しさ・思いやりを大切にし毎日に取り組んでいる。	○	人事考課の面談の時に意見等を言っている。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	理念が浸透しているか分からない。	○	浸透し理解してもらえよう取り組んでいきたい。
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	気軽に立ち寄ってもらえるような雰囲気には心掛けている。		業務優先になっているので少しずつでも付き合いができるよう働きかけていく。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	特養の職員より交流の場の声掛けはあるが参加するまでには至っていない。		交流の場の提供があった時にはなるべく参加できるようにもっていききたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の高齢者の暮らしに貢献したいが業務優先になっており実施していない。		定例研修会・カンファレンス等の時に話し合い取組んでいけるようにしたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	指摘されたことは直ぐに実施している。	○	少しずつ改善しつつある。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	グループホーム中央ブロック研修会に参加して情報を取り入れている。	○	運営推進会議に参加し情報を取り入れサービスの向上に活かしていきたい。情報を取り入れサービスの向上ができるよう取り組んでいきたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者の方で行き来する機会の場ができるよう取り組んでいるところである。		話は聞いているが行き来するまでには至っていない
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	研修には参加している。	○	支援できるよう学んで取り組んでいきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	常に心掛け防止に努めている。 研修に参加して学ぶ機会を作ってもらい虐待が見過ごされることがないようにし取り組んでいる。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p> <p>十分な説明を行い契約を結んでいる。</p>	○	<p>今までの契約のやり方でトラブル等が発生していないので今後も続けていけると良い。</p>
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p> <p>利用者がいつでも話せるような機会は設けてある。</p>		<p>何でも言えるような雰囲気づくりに取り組んでいく。</p>
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p> <p>金銭報告は年3回行い面会時には必要に応じて署名捺印をお願いしている。 異動は分かり次第報告している。 日々の暮らしぶりの知りたい家族にはケース記録を開示している。</p>		
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p> <p>苦情処理簿がありいつでも記入できるようにしてある。 意見が言ってもらえるように働きかけてはいる。</p>		
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p> <p>人事考課時の面談で意見は言っている。</p>		<p>意見が言えるような職場になるよう取り組んでいく。</p>
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p> <p>リーダー・職員同士で話し合い勤務の調整を行っている。 状況の変化時には勤務変更又、整理等行い人員の確保に取り組んでいる。</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>18</p> <p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>退職者が出た時などに、必要最小限の異動がなされている。</p>	<p>○</p>	<p>度々の異動は止めた方が良い。利用者のダメージは大きい。新しい職員に慣れるまで不穏が続く。</p>
<p>5. 人材の育成と支援</p>			
<p>19</p> <p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>年内に数回の研修が受けられ勉強になる。研修で学んだことを定例研修会で発表している。</p>		
<p>20</p> <p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>ネットワーク作りはまだであるが地域同業者の交流会には主任が参加し話は聞いている。</p>		<p>業務優先になっている。相互訪問等取り入れてもらい交流出来る機会を作って質の向上が出来る様取り組んでいきたい。</p>
<p>21</p> <p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>ビヤガーデン・ボウリング・ミニバレー大会等の呼びかけがある。</p>		<p>ストレスは休みの時に自分なりの解消に取り組んでいる。</p>
<p>22</p> <p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>年2回人事考課の面談がありゆっくりと話を聞いてもらっている。</p>		<p>把握してもらっていると思う。</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用されている病院・施設に面会に行き本人と会話するようにしている。	自己紹介ぐらいなのでゆっくり話を聴くようにしていきたい。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入所前・見学に来られた時又、電話等で話を聴き受けとめる努力はしている。 契約時要望を聴き受けとめている。	
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	特別なことでない限り受けとめている。 職員で見極められない時は主任に相談している。	
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族と相談して開始している。 本人が納得しているかには難しいものがある。 (ショートステイ) 30日以内の期間で定めたサービスを提供している。	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	一緒に過ごす時間を取るようにはしているが業務優先になっている。 団子作り・クッキー作り・餅つき等行い学んだり支え合う取り組みをしている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会時・時々家族に電話をかけ日々の状態報告を行っている。 行事には参加の協力を得て本人と一緒に参加してもらっている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面会時外泊・外出の協力をお願いをしている。		日頃会話中に聞いたことは必ずメモをとり家族に伝えるようにしていきたい。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	毎月ミニドライブを計画しているが難しいものがある。		故郷訪問を取り入れていきたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	一人ひとりが孤立しないようにするには難しいものがある。（ホール・外には椅子は置いてある）	○	孤立する利用者のいないよう取り組んでいく。
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	電話がきたり・ホームに来園される家族はあるが職員から出掛けることはない。		終了後も関わりをもち付き合いを大切にするようにしていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いや意向又、把握には努めているが本人本位ではない。	○ 本人本位になるように検討していく。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族に聞いて把握はしているが詳しい情報ではない。	家族に詳しいことを聞き把握に努める。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	1日の様子を日誌・ケース記録に記録してある。朝の申し送り又、申し送り簿に記入し全員の職員に分かるようにしている。	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	作成前本人・家族に要望をきき又、栄養士・医務主任に依頼書にコメントをもらい作成はしている。	○ 家族・職員のケアプランになっているので本人の希望するケアプランを作成していくよう努める。センター方式を取り入れ事例者をあげ取り組んではいいる。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月毎の見直し又、特変が生じた場合には新たな介護計画書を作成している。退院後又、通院等の変化が見られた時にはその日から完治までの介護計画書を作成している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員で情報を共有し記録を介護計画の見直しに活かしている。 日々の様子を個別記録に残し記入している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設している特養・病院などの協力を得柔軟な支援を行っている。 特変時昼夜問わず支援が出来るようになっている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	敬老会の余興・夏祭り・ホームの芋ほり等地域・ボランティア・学生等に協力を得て行っている。 全施設合同の催しものに毎年沢山の人々に協力支援をもらっている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	管理者が他の事業所に行きサービスを利用する働きかけをしている。		サービスを利用する話しが来た時には取組んでいきたい。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	情報の交換は行っている。		取り組むまでには至っていない。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の希望を大切にし納得を得られる適切な医療が受けられるよう支援している。	○	病院と併設になっている為緊急時は早急に対応が出来るよう情報を常日頃から調整しておく。
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	専門医ではないが併設病院があり相談したり指示を仰いでいる。	○	医師との関係を築きながら何でも相談でき適切な医療が受けられるよう支援する。
45 ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	病院と併設された施設で健康管理や医療活用できているが利用者一人ひとりが把握されてなく気軽に相談できていない。		看護職員と良い関係を築き気軽に相談できるよう努める。
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	利用者が入院した時又、退院に向けての情報交換・相談に努めている。	○	病院関係者・家族との連携を強くする。
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	口頭・文書で家族に説明し承諾の署名・捺印をもらっている。		状態報告を常に行い信頼関係をつくっておく。
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	日々常に利用者の変化に注意し職員間で情報交換を行っている。		重度化・終末期のケアに向けての心構えや知識を職員間で話し合う。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	外泊時等に状態報告し情報交換しダメージの軽減に努めている。		細やかに利用者を知り、家族・ケア関係者と情報交換を行う。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーの確保がなされている。		一人ひとりの尊厳を守る言葉掛け・対応を周知徹底する。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	職員側の決まりや都合で進めてしまう時がある。	○	本人の思い・希望を見極め・納得しながら暮らせるようケアをする。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の決まりや都合が優先となってしまう時もある。	○	その人らしい生活ができるようその人に合った個別ケアをする。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	家族の希望で職員が散髪している。行き着けがある利用者は家族が連れて行かれる。	○	自己決定を基準としたその人らしい身だしなみ・おしゃれができるよう支援する。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54 ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好み又、咀嚼・嚥下状態に合わせた食事を提供している。 片付け・洗物も苦にならないようであれば一緒に行っている。	○	出来ることを一緒に楽しく行い意欲に満ちた生活が送れるよう支援する。
55 ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	家族が持参された物や買い物で買った物をおやつ時に食べて頂いている。		一人ひとりの好みに合わせて提供し満足して過ごせるよう支援する。
56 ○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	まだ出来ることに視点を置き紙パンツから下着に替える支援を行っている。	○	まだ紙パンツを外せる力を持っている人がいると思われるので残存機能を生かせる支援を行う。
57 ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	職員の決めた時間で実施しているが利用者の希望があれば時間をずらしたり中止したりしている。		一人ひとりの希望・タイミングに合わせてゆっくりと満足して頂けるよう支援する。
58 ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	一人ひとりの生活パターンやその日の状況が違うので、生活習慣を大事にして、その人なりの生活が送れるよう支援している。	○	生活習慣やその時々状況職員間で申し送りしながら気持ちよく眠れるよう支援していく。 一人ひとり、生活パターンやその日の状況が違うのでその時々に応じて気持ちよく安眠ができるよう支援する。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	意欲に満ちた生活が送れるよう支援しているが利用者の性格によってはまだその方の楽しみごと等を引き出せていない部分もある。	○	一人ひとりの生活歴を深く知り隠れている力や喜びを見つけ出し張り合いや喜びのある生活が出来るよう支援する。


項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	サイフに低額のお金を入れ渡している。又、買い物に行き好きな物を選んで頂いている。		本人の希望や力に応じてお金を持ったり使えるような支援を行う。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	本人の希望にそって戸外に出かけられるよう支援している。又、ミニドライブ・外食の日等を計画し実施している。		本人の行動を中止する事なく自由に過ごせるよう支援を行う。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	ふれあいデーとして家族とデパートで待ち合わせし家族とのふれあいの場を提供している。	○	家族を巻き込んだでの外出の機会を計画する。
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	伝えたい事等の声が聞かれたら電話をし会話をしてもらっている。		季節や行事毎の手紙や電話のやり取りが出来るよう支援する。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	椅子・テーブル等セッティングをし言葉掛けに気配りし居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	面会に来て頂く事への工夫・声掛けを積極的に行う。
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	安全に配慮しながら身体拘束にならないよう努力している。	○	庭と自由に入出入り出来る様環境整備を行う。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけないケアの実践が行われている。必要に応じ居室の窓の鍵はかけている。		
67 ○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	居室を開けるのを嫌がる利用者は巡視しその他の利用者は居室のドアを開けて常に所在や様子を把握し安全に配慮している。	○	排泄介助時にプライバシーに欠ける介助をしがちである。入り口のカーテンを閉めての介助に取り組んでいく。
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	居室に置いてある個人用の車椅子・椅子等に物をとろうと立ち上がりする利用者に対して車椅子は目の届かない場所に、椅子はホールに保管し危険を防ぐ取り組みを行っている。危険を感じた時には早めの対応を行っている。		
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ふらつきのある利用者の行動を把握するよう努め食事時は側で声掛け見守りを行っている。転倒のある利用者には常に手引きを行っている。誤薬のないよう名前を確認するよう心掛けている。		
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	応急手当や初期対応は救急隊員等の指導訓練を受けている。定例研修会等でビデオ視聴したり応急手当の訓練を行っている。		
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災や地震等の避難訓練は月に1回行っている。	○	利用者に指示が伝わりにくい為早く避難できる方法を身につけるよう取り組んでいきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
72	<p>○リスク対応に関する家族等との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている</p>	家族の面会時にリスクについてや状態報告は行っている。 面会時に説明し対応策を話し合っている。	
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>○体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている</p>	常に体調の変化には目を配り1日最低1度はバイタルチェックを行っていて異変時には速やかに医務に連絡報告を行っている。 午前・午後のバイタルチェックを施工し記録を残している。	
74	<p>○服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	一人ひとりの指示薬の目的や副作用・用法・用量の説明書はケースに添付し理解している。 用量に関しては医師に上申する事がある。	
75	<p>○便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる</p>	水分補給の摂取量をチェック表に記入し運動や散歩を促し実施している。 必要に応じて服薬・摘便等を行っている。	
76	<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている</p>	毎食後声掛け誘導し側に付き添い歯磨きの確認を行い出来ない利用者に対しては介助している。 口腔内を清潔にしていることで風邪をひく利用者や熱の出る利用者が少ないので毎食後一人ひとりの力に応じた支援をしている。	
77	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	栄養士の献立指導の元で行っている。 栄養士に体重の増減を相談している（6ヶ月毎）	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	定例研修会時に感染症に対する勉強会を行い実施している。	○	定例研修会・園内研修でビデオ視聴・看護師の講義等を聞いて取組んでいきたい。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	毎日業者に食材は持って来てもらって衛生管理にも努めている。 食事作り前の手洗い・調理用具は乾燥機に入れ食材は冷蔵庫で保管するよう取り組んでいる。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関周りに花を飾ったり植えたりレグリーンカーテン等取り入れ工夫している。	○	四季毎に花の苗を沢山置いて又、周囲の工夫もしていきたい。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感のある飾りつけを行うように努めている。 夏はグリーンカーテンとして苦瓜を植えつけた。 日差しの強く入る所にはよしずを設置してある。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人ひとりの居室がありホール・食堂で利用者同士で会話されている。 ホール・外に椅子が置いてある。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 ごせるような工夫をしている	家族には使い慣れたものの持ち込み使用を促し家 具等持ち込んでもらっている。	○	本人の好みの物を持って来てもらい居心地の良い 生活ができるよう工夫していきたい。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている	換気はまめに行っている。 換気は起床時窓を開け行っている。 温度調節もこまめに行っている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活か して、安全かつできるだけ自立した生活が 送れるように工夫している	浴槽等の手すり等が十分ではない。 ホールが広く手すりが不十分なので椅子を多く置 いている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工 夫している	日常生活の出来る範囲で家事等行ってもらって いる。 利用者一人ひとりに合った力で手伝ってもらっ ている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽し んだり、活動できるように活かしている	畑があり収穫を一緒に行っている。 ベランダがない。	○	外へ自由に行けるような工夫が必要である。

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる		①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
		○	③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある		①毎日ある
			②数日に1回程度ある
		○	③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
		○	④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています		①ほぼ全ての家族と
		○	②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
			②少しずつ増えている
		○	③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・ふれあいデー（年2回）及び年3回の外食
- ・午前、午後ほぼ毎日の運動
- ・利用者と一緒に畑の収穫
- ・毎食後の口腔ケアと起床時の換気を実施することで熱発者がいない。